

# これからの農業

安芸高田市の基幹産業である農業。安芸高田市には、2, 872戸の農家があり、稲作を中心に、ネギやアスパラガス、ブロッコリーなど、さまざまな農作物が作られています。しかし、農業従事者の高齢化や地域の過疎化、担い手不足の問題に直面しています。

そんな中、農業の世界に入り、悪戦苦闘しながら農業に取り組んでいる若者がいます。また、農業を活性化させる仕組みづくりをしている地域があります。

わたしたちの身近にあり、生活を支えている農業。これからの農業を支える若い力と、農業を生かした地域づくりをご紹介します。

広島県立農業技術大学校を卒業後、高宮町にある(株)羽佐竹農場に今年の4月に就職した松長将弘さん(20)。現在はチンゲン菜の栽培を行っています。

「中学生の頃から家庭菜園をやっていた、きゅうりやすいかなどを育てていました。その時から野菜や植物を育てる楽しさを感じていて、高校生の時に植物や自然相手の仕事をしたいと思い、将来農業の仕事に就くため、農業技術大学校に進学しました」

松長さんは、やればよかっただけ成果が出る農業にやりがいを感じておられます。

「野菜は、自分が手をかけたぶんだけよく育ちます。例えば、雑草を取る取

らないで全く成長の度合いが違いますし、そのまましておく野菜がだめになってしまいます。手をかけただけ成果が出るにおもしろさを感じます」

松長さんの朝は早く、午前4時に起床し、5時に出勤。その後、8時半までチンゲン菜を収穫し、昼までに袋詰めします。その後、美土里町にある共同出荷場に出荷した後、1時間ほど休憩して、午後5時頃まで草取りなどをします。

就農して3ヶ月が経った松長さんですが、少しずつ仕事にも慣れてきたそうです。「最初の頃よりも早いペースで仕事ができるようになりました。しか

し、トラクターを操作する技術や、水のあげ方によって野菜の成長が変わるといった栽培に関する知識はまだまだなので、そういったものを早く身に付けたいと思います」

(株)羽佐竹農場では水稲、白ネギ、そのほかの栽培をしていますが、今年からチンゲン菜の栽培をはじめ、その担当を松長さんが任せられました。「広島県の北部では、チンゲン菜を栽培する農家が増えています。仕事を任せられたことに責任感を感じながら、期待されているんだな、ということも感じています」

また、松長さんは、若い人にもっと農業をしてほしいと考えているそうです。「僕は吉田高校の地域開発科(現アグリビジネス科)出身です。安芸高田市には農業を勉強できる高校がありませんし、そういうところで農業を経験して農業の魅力をどんどん知ってもらいたいです」

農業後継者育成支援事業を利用して農業の世界に就職した松長さんは、「この制度があることによって、農業をやりたい人が農業技術大学校に行きやすくなりますし、また、自分自身を支援してもらったぶん、ちゃんと勉強しなければならぬ、という気になりました」と言います。最後に、「チンゲン菜をきちんと作れるようになってから、ほかの野菜も作ってみたい」と今後の意気込みを語ってくれました。



1. チンゲン菜の収穫をする松長さん。2. 松長さんがチンゲン菜を栽培している6棟のハウス。3. パート従業員の稲田さんと、収穫したチンゲン菜の不要な根の部分の切っている様子。この作業の後袋詰めをし、出荷する。4. 一つひとつ手作業で袋詰めされたたくさんのチンゲン菜。

## 農業後継者育成支援事業とは…

農業を支える担い手を育成するため、安芸高田市とJA広島北部が共同で設立した基金制度。管内(安芸高田市)で就農を希望する人に広島県立農業技術大学校(2年間)の授業料などを助成。その後最長で3年間JA広島北部特別契約職員として現場研修・実務研修を受けることができる。広島県立農業技術大学校を卒業後、就農先があれば、現場研修を受けずに就職することも可能。



株式会社 羽佐竹農場  
松長 将弘 さん (20)

## 羽佐竹農場を訪れた安芸高田市出身の農大生にお話を伺いました!

7月3日(木)、4月に就農した松長さんの仕事の様子を見学するため、広島県立農業技術大学校の学生約30名が羽佐竹農場を訪問。松長さんが仕事の手順や今後の目標を発表し、その後学生たちはハウスや圃場を見学しました。



米田 和正 さん (25) 【美土里町出身】

農大で畜産の勉強をしています。先輩の話聞いて、よい刺激になりました。楽しんで農業をするべき、という言葉に共感しました。



太田 一宏 さん (18) 【吉田町出身】

農業は本気でやらないとだめだと感じました。知識はこれから学ぶことができるので、農業をやりたいという気持ちを強く持つことが大事だと思いました。将来は水耕ネギを作りたいと思っています。